

## 編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌  
編集委員長  
上原里程

会員の皆様には、平素より本誌の発行に多大なご協力をいただき感謝申し上げます。新しいメンバーでの編集委員会の活動が始まり、早4か月が過ぎようとしています。本稿では、編集委員会の編集方針および主な取り組みについてご紹介します。

### 1. 編集方針：支援的な査読の心がけ

投稿頂きました原稿について編集委員会で査読が必要と判断した場合は、査読委員に査読を依頼します。その際に、査読委員のコメントは全般的なコメントと個別のコメントに分けて記載し、著者に修正を検討頂きたい点が明確になるよう支援的な査読に努めています。著者が希望した原稿の種類で査読し、原稿の種類については基本的に審査の過程で編集委員会から変更を求めません。また、論文の内容や構成は著者の意図、論文の体裁を尊重し、査読意見は採択に必要なものに限ることとし、問題点を指摘するだけでなく、採択レベルに達するような改善策を提案することとしています。

### 2. 編集委員会の主な取り組み

#### ・隔月の委員会開催と常時のメーリングリストでの議論

編集委員会では、常時メーリングリストでの審査を行うことに加えて、隔月で編集委員が顔を合わせて議論する場を設けています。審査に関連する課題や優秀論文賞、ベストレビュー賞の選考・選出等について議論しています。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、オンライン会議となり対面での会議は難しい状況が続いておりますが、顔を合わせての議論はメーリングリストでの議論以上に内容の濃いものとなると実感しています。

#### ・早期公開

会員の皆様のご協力により投稿論文数が増え、それに伴い採用論文数も増加しています。67巻からは各号に5~6編の論文を掲載できるようになってきました。一方で、採用から掲載までの期間は67巻の全期間で平均109日であり、決して短いとはいえません。そこで、少しでも早く採用論文が公開できるよう、2020年10月から採用論文の早期公開を開始しました。掲載直前の原稿をJ-STAGEで読むことができますので、是非ご利用下さい。

今後も質の高い原著論文や現場での活用が期待できる公衆衛生活動報告など、公衆衛生の発展に寄与できる論文を数多く掲載していきたいと考えております。そのための取り組みを編集委員一同で議論しながら進めていく所存ですので、是非多くの論文をご投稿くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

